

## 2025年度第2回第三者定期監査結果の報告について

### I. はじめに

当社は原子力安全の維持向上を図るため QMS 活動の浸透定着に日々取り組んでいる。

各組織の品質保証部門と安全・品質本部は、共に QMS 活動の中でも重要な CAP システムによるパフォーマンス改善の推進が役割である。2025 年度第 1 回第三者定期監査の総括では、「QMS 活動の更なる充実を図ること」、「安全・品質本部と各品質保証部門とが積極的に連携すること」の期待が示されており、2025 年度第 2 回第三者定期監査（以下、「本監査」という。）では、これらを踏まえ、各組織の品質保証部門に対して自組織内の活動にどのように関与しているか、安全・品質本部に対して全社的な牽引役としてどのような取り組みを行っているかを確認いただいた。

### II. 監査結果の概要(2025 年度 第 2 回 第三者定期監査報告書を抜粋し要約)

#### 1. 監査項目

##### (1) QMS 活動の実施状況

- ・CAP システムのパフォーマンス改善の推進に係る取組状況  
(再処理事業部・技術本部、濃縮事業部、埋設事業部)
- ・CAP システムによる全社的なパフォーマンス改善の推進に係る取組状況  
(安全・品質本部)

##### (2) 前回までの監査結果のフォローアップ

- ・再処理事業部・技術本部および埋設事業部に対する 2025 年度第 1 回定期監査(2025 年 7 月)で抽出された観察事項・提言事項についての改善状況を確認。

#### 2. 監査結果

2025 年 12 月 8 日～19 日に行われた本監査の結果、「提言事項」1 件が抽出された(添付参照)。

	再処理事業部 技術本部	濃縮事業部	埋設事業部	安全・品質本部	計
指摘事項	0	0	0	0	0
観察事項	0	0	0	0	0
提言事項	0	0	0	1	1
良好事例	0	0	0	0	0

指摘事項：定めた要求事項が実践・実行されていない事項。不適合相当であり是正が必須。

観察事項：定めた要求事項がほぼ実践・実行されているが、その程度が必ずしも十分でないため、何らかの改善を期待する事項。

提言事項：定めた要求事項が実践・実行されている。その上で、今後のより優れた運用を期待して参考提言する事項。提言事項の採否は、被監査部門の任意とする。

良好事例：さらなる自発的改善が図られており、他の部署にも参考となる事例。

#### 3. 監査所見

##### (1) QMS 活動の実施状況

本監査の範囲において、提言事項 1 件が抽出されたものの、QMS に係る活動の実施状況は、概ね適切であると判断された。

##### ①再処理事業部・技術本部、濃縮事業部、埋設事業部

品質保証部門の CAP システムのパフォーマンス改善の推進に係る取組状況を確認した。その結果、改めて懸念される事項は確認されなかった。

##### ②安全・品質本部

CAP システムによる全社的なパフォーマンス改善の推進に係る取組状況を確認した。その結果、運転経験情報(OE 情報)の調査依頼に対する事業部からの回答が「調査不要」であった場合、その理由等を保安監視 G が確認することを聴取したものの、サンプリングした事例では調査不要の理由が依頼の視点に沿っているかの確認がなされていなかった。(提言事項)

##### (2) 前回までの監査結果のフォローアップ

観察事項「是正処置の実効性レビューの適正化を行うこと」および提言事項「低気温時における接着剤の硬化時間を考慮した是正処置を行うこと」に対する改善が適切に実施されていることが確認された。

#### 4. 第三者外部監査機関の所感

本監査では、各事業部の品質保証部門がコンディションレポート(CR)件数に応じた現場部門に対する事業部独自のフォローアップを行っている状況を確認した。また、安全・品質本部が各事業部へ行った運転経験情報(OE 情報)の調査依頼に対して提言事項を挙げた。

このフォローアップに関し、各事業部の品質保証部門から管理システム(JCAPS)に関する改修が要望されている点について、速やかな改修につなげるため、事業部側が考える優先度を把握することを期待する。改修にあたっては、各事業部の品質保証部門による対応部署へのフォローアップがより省力化できるよう留意されたい。

本監査を通じ、パフォーマンス改善推進者(PICo)は CAP システムにおける中心的な役割(CR のスクリーニング、パフォーマンス改善会議(PIM)への報告、処置計画の妥当性確認、原因分析・対策立案など各部署の活動支援や指導など)を担っていることをあらためて確認した。このような役割を組織として維持し続けるために、次世代の PICo 業務を担う者の育成にも留意されたい。

以上、安全・品質本部においては、全社的な牽引役として CAP システムによるパフォーマンス改善の推進を期待したい。

### III. 監査結果に対する日本原燃の取組み

2025 年度第 2 回の定期監査で示された「提言事項」1 件に対して、当社は対応方針(添付参照)に基づき処置を実施した。

### IV. 今後の予定

2026 年度第 1 回の定期監査を 7 月に予定している。対象は、再処理事業部・技術本部、濃縮事業部、埋設事業部、安全・品質本部、監査室となる。

以上

第三者外部監査の抽出事項

提言事項

No.	監査項目	第三者外部監査機関により確認された提言事項	日本原燃の対応方針	実施部署
1	CAP システムによる全社的なパフォーマンス改善の推進に係る取組状況	<p><b>OE 情報の展開調査における積極的な関与について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全事業部のパフォーマンス改善推進者（PICO）が集まる PICO 全体会議で、運転経験情報（OE 情報）に対する調査依頼の可否を情報共有しているが、最終的な調査可否は各事業部が開催するパフォーマンス改善会議（PIM）で判断され、その結果を各事業部の品質保証部門が回答として管理システム（JCAPS）に入力している。</li> <li>OE 情報の調査依頼に対する事業部からの回答が「調査不要」であった場合、その理由等を保安監視 G が確認する必要があることを聴取したものの、今回のサンプリング事例では調査不要の理由が依頼の視点に沿っているかの確認がなされていなかった。</li> <li>これを受け、OE 情報の調査依頼に対して「調査不要」と回答があった場合は、調査不要の理由が依頼の視点に沿っているかを確認し、疑義が生じない理由の記載とするよう促すとともに必要に応じて回答箇所へ可否の再検討を依頼するなどの関与を期待する。</li> </ul>	<p>「OE 情報の取り扱いに係るガイド」（以下、「ガイド」という。）では、調査依頼の際、調査の視点について意見交換により対応方針の認識合わせを行うことを定めている。サンプリングの事例においても PICO 全体会議で意見交換等を実施したことを確認したが、調査の視点に沿わない回答が JCAPS に入力されていた。ガイドでは、必要に応じて事業部と回答について協議することを定めていたが、事前に示した調査の視点に沿っているかは明記されておらず、同事例ではその確認までは行っていなかった。</p> <p>OE 情報の展開の実効性を高めるため、以下の趣旨をガイドに反映する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（安全・品質本部は）調査の視点に照らして、調査不要の理由を確認し、疑義がある場合は事業部と協議する。</li> <li>（安全・品質本部は）事業部との協議を実施し、必要により再検討を依頼した場合は、再検討結果を確認する。</li> </ul> <p>なお、調査の視点に沿わない回答をしていた事業部に対しては、監査室が別途内部監査において改善を要求している。</p> <p style="text-align: right;">処置完了日：2026 年 03 月 06 日</p>	<p>安全・品質本部 品質保証部 保安監視グループ</p>